

## 豊かな友達関係を育む学級活動

### 1 はじめに

実社会では、大人から子どもたちへと、希薄な人間関係が顕在化してきている。学校では、月2回の学校週5日制が実施に移され、より現実的に、家庭・社会・学校の果たす役割を考えさせられるとともに、自ら考え、主体的に判断し、行動するために必要な資質や能力の育成を重視する学力観がより問われようとしている。

私たちは、“子どもの今”を見つめ、今、何が大切なのか、今、何が子どもたちに求められているのかを模索する中であって、“豊かな感性を育む”ことを柱に据えて取り組んできた。感性を知性・理性なども含めた母体となるものにとらえ、事象から受け取る鋭さや豊かさ、また、物事を実践化するための積極的で総合的な発進源になる力にとらえている。激しく変わり行く社会生活の中であって、子どもたちの学校生活がより安心できる場として、友達と温かなつながりを育みながら、子ども自らが自分らしさを発揮し、相互に認め合い高め合いながら、主体的に過ごせるよう願っている。

“豊かな感性を育む”ことが、特別活動（本稿では学級活動）においては、生き生きと自主的に実践する子どもにつながる視点を見据え、そのための教師の働きかけや、基盤となる学級集団の重要性がますます求められているのではないだろうか。

### 2 指導事例 第1学年 「ともだちのいいところをさがそう」

～にがおえクイズをしよう～

#### (1) 題材について

学校生活にもなれ、たくさんの友達と自然体で付き合えるようになってきたこの頃。ちょっとしたトラブルは日常茶飯事の中で、良しにつけ悪しきにつけ、友達として、またクラスとしての仲間意識が強まってきている。学校生活が生活リズムの大きな部分を担う中で、当たり前になってきている友達との関わりに、相手をよく観察した初めての出会いのころの目と心を思い出しながら、今一度立ち止まり、見つめ直し、そのよさに着目させる時間をとることは意義深いことと考えられる。

自分は友達からどのように見られているのだろうか。また、自分の気がつかないよさを友達の思いから発見できるかもしれない。そして、自分のよさ

を見直し、友達どうしがよりよくつながり、お互いになかよく認め合える関係を意識してくれればと考えている。本学級の子どもたちにアンケートを実施した結果、クラス全員が仲良しがいると答えている。遊ぶ人数は、男子が多人数で遊ぶことを好む傾向を示し、女子では多人数に加え、3名前後での遊びを好む傾向も見せている。また、男子の若干名に、一人で遊ぶことが多いとの解答が見られた。けんかをしたことの有無を尋ねると、約半数の子が、あると答えている。些細なことをけんかで見ない傾向も見受けられるようである。けんかの原因はやはり、遊びを通してが多く、悪ふざけ・ルール違反・一つのものを取り合い・仲間に入れるか否かなど、またけんかの仕方は、口げんか・暴力となっている。

## (2) 指導の経過と展開・・・・・・・・・・・・・・・・（全2.5時間）

**第1時** 友達のいいところを見つけをする・・・・・・（1/2時間）＋帰りの会

普段の係活動で、「自分の似顔絵コンクール」「実習の先生の似顔絵コンクール」とアイデアを出しながら進める子どもたちの活動から、指導者の願いを基に、その人のいいところをヒントにしながらの「友達の似顔絵あてっこクイズ」を提案した。誰を描くのかについては、記名カードを用い、自分以外の人を引き当てることにし、帰りの会までにその人をよく見て、メモするようにした。

**第2時** 友達の似顔絵を描く・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

友達に見つからないように描くのは、たいへんだったようだが、楽しそうに描く姿が見られた。絵は、顔のみに限定するのではなく、その人のいいところが伝わるような形を工夫した方がさらによいことを付け加えた。

**第3時** 似顔絵と友達のいいところを基に、誰なのかを当てる会をもつ。

なお、司会者との打ち合わせは、休憩時間をあてた。・・・・（本時）

会の進め方の練習や黒板に貼るカードの作成を通じて、見通しをもって臨めるよう配慮した。

## (3) 本時『授業設計の焦点』の抜粋から

司会をする子どもたちは初めてなので、安心した雰囲気の中で、自信をもって進められるよう、いつでも励ましたり、手助けできる言葉かけや教師の立つ位置に心がけたい。また、クイズにおいては、教師が行って見せ、発表の形式を理解させるとともに、学習への雰囲気づくりを行うことで、次に行うグループでのあてっこ遊びに意欲をもったのぞめるよう働きかけたい。そ

### 第三章 豊かな感性を育む授業実践

して、友達のいいところに気づき、グループみんなで一人の友達のよさをもう一度考え、探ってみる活動を組むことにより、友達を見る広がりや深まりを期待したい。活発に活動している子どもや自分たちだけで自主的に活動しているグループを称賛するなど、適宜、評価しながら意欲の高まりを促していきたいと考えている。

#### 本時の目標

友達のいいところに気づき、進んで話し合いに参加できる。

#### 評価の観点

個性の伸長	友達や自分のいいところに気づく。
社会性の育成	友達の発表をさいごまでよく聞き、協力していこうとする。
自主的・実践的な態度	全体やグループ活動に進んで参加しようとする。

#### 学習指導案の展開から

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 活 動
1 はじめのことばを言う。	1 司会のことばを言う子どもたちははじめての経験なので、自信をもってできるように全員で励ます雰囲気をつくる。
2 今月の歌を歌う。	2 今月の歌「冬の歌」を楽しく歌う。
3 活動のめあてについて先生と話す。	3 子どもたちに今日の活動を問いながら似顔絵あてっこを通じて、友達のいいところをたくさん見つけられるように励ます。
4 似顔絵あてっこクイズをする。 [教師による演示] → [グループ活動]	4 ◎見通しを持たせるために教師がみんなの前で行ってみせる。
(1) 似顔絵を見て考える。 ↑(相互的に) ↓	描いた子どもは似顔絵を提示すると共に描かれた子どもの特徴(その人のいいところ)をヒントに出しながら、応答できるようにする。そのため机間指導の中でアドバイスや励ましの言葉かけを随時行う。
(2) その人のいいところをヒントに考える。	
(3) 当たったら、その人のいいところを考えて、付け加える。	
5 描いた似顔絵を本人に渡し、自分で見たり、読んだりする。	
6 5を見て、感想を持つ。	5 よかったこと、面白かったことなど発表し、6の活動につなげる。 6 ◎感想カードを活用する。

7 先生の話聞く。  
8 おわりのことば

7 幾人かに感想を聞き、いいところを見つけ合うのは、みんなが仲よくするために大切であることを伝え、今後ともよりよい友達関係を築いていくよう励ます。また、司会係や進んで活動した子どもたちのがんばりなどを称賛する。

#### 4 おわりに

本実践は、子ども同士のよさを見つけ合う活動を通して、友達との人間的な触れ合いを育もうと計画した。題材を通して、保護者の方々にも参加していただくなど、友達のいいところを少しでも意識し、温かなつながりをつくっていきけるきっかけにしてほしいと願った。

本時授業においては、子どもたちは、クイズ形式の活動に楽しんで取り組んだ。しかし、その一方で、大きく二つの課題が取り上げられた。

一つには、絵を見て、簡単に当たってしまったことが、友達のよさを発表しないままに終わり、そのため、グループでいいところを見つけ合う活動の必然性が薄く、進んで見つけようとする事につながりにくかったこと。この改善策として、見つけたいいところを発表した後、絵を見せる。また、グループで友達のいいところを発表し合うだけのシンプルな活動とするなどが考えられた。

今一つは、多くの子どもたちの意識には「〇〇が上手」のように、優れている点や得意なことなど、表面的な目に見える結果やよさを追い求める傾向が見られた。しかし、頑張っていること、優しさ、温かさなどを意識的に深め、いいところを見つけようとする子どもの意欲を高めていく教師の投げかけが十分であったなら、内面的なもの、過程などの見えにくいものにもっと視点を当てることのできたものと考えられる。

本時授業を通じ、子どもたちと教師の意識のずれを受けとめながら、日々の生活を見つめ直し、子どもたちの心をより鋭敏に感じ取り、子どもたち同士の心の耕しを図れるよう、教師自身の研鑽の必要性を改めて実感した次第である。

#### 《参考文献》

- 1) 熱海則夫，高岡浩二，高橋哲夫監修『学校週5日制と1・2年生の特別活動』国土社，1993年，79頁
- 2) 広島大学附属東雲小学校研究紀要『豊かな感性を育む』1993年，181頁
- 3) 文部省『小学校指導者 特別活動編』平成元年，24頁
- 4) 成田國英編著『小学校特別活動指導細案 学級活動1年』明治図書

(阿比留 時彦)